



TITLE:

# 聯合國經濟同盟ニ對スル我國ノ態度

AUTHOR(S):

戸田, 海市

---

CITATION:

戸田, 海市. 聯合國經濟同盟ニ對スル我國ノ態度. 經濟論叢 1916, 3(2): 303-325

ISSUE DATE:

1916-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127054>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

大正五年九月一日發行

第三號

第三卷

## 論說

聯合國經濟同盟ニ對スル我國ノ態度

國防稅ノ當否(一)

でうあつぎ・ひゆーむノ經濟學說(五)

『座』ノ研究(一)

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ニ對スル論

資本ノ眞概念ノ發展(二)完

## 雜錄

小野塚牧野兩博士ノ新著

不換紙幣流通ノ根據ニ就テ福田博士ニ答フ

びゆつひあーノ經濟階段ニ對シテ說ハ其獨創ニ非ズ

最低賃金ノ制度ニ就キテ

日英ノ物價

手ノ器用ト其脩養

『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

『瀧本誠一氏ノ草莽解題ニ就テ』ノ補遺

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

文學博士 三浦 周行

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

山本美越乃

法學士 河田 嗣郎

法學士 財部 靜治

法學博士 河上 肇

鈴木 券太郎

(載 轉 禁)

# 經濟論叢

第二卷 第三號 (通卷第十五號)

大正五年九月發行

## 論說

### 聯合國經濟同盟ニ對スル我國ノ態度

戸田 海市

聯合國經濟同盟ノ成立ハ壓迫ナルト同時ニ、相互ノ間ニ 戒程度ノ接近ヲ圖ル所ノ結合、就中關稅上ノ結合ヲ發生スルモノトスレハ、其内容ハ如何ナルモノトナルヘキヤ、又此ノ如キ結合ヲ成立スレハ我國ハ之ニ加入スヘキヤ、之ニ加入スルトスレハ如何ナル條件ヲ以テスヘキトノ 題ハ曾テ之ヲ本誌ニ論シタ(第二卷第六號)其後間モナク四里ニ於テ聯合國經濟會議ヲ開カレ、我國モ之ニ委員ヲ派遣シタガ、該會議ハ一ノ經濟同盟案ヲ決義シテ之 各國政府ニ提供シ、速カニ之ニ同意スルト同時ニ其實行ニ必要ナル種々ノ手續ヲ協定スヘキコトヲ要求シタ。此決議ノ中戰後ニ實行セラルヘキ經濟同盟ニ關スル規定ハ稍漠然タルノ嫌ハアルガ、其内容ハ大體予輩ノ前ニ推測セシ所ト一致スルモノデアツテ、本決議ニハ此戰事中相關結シテ經濟手段ニ由リ敵國ヲ壓迫スルノ方法ヲモ規定シテ居ルノ 誤新聞ノ傳フル所ニ由レハ英國政府ハ既ニ下ニ於テ本決議ニ同意ノ旨ヲ公表シ、又仄カニ聽ク所ニ由レハ其他ノ諸國モ大體之ニ同意スルト同時ニ多少ノ意見ヲ提出シツツアルニ反シ、我政府ハ之ニ對シテ未ダ何等ノ意見ヲ決定スルニ至ラナイヤウテアル。予輩ハ我國カ此經濟同盟ニ加入スルノ必要ヲ認メル者デアツテ、之ニ加入スルニハ如何ナル條件ヲ以テスヘキヤハ茲ニ再ヒ之ヲ論シナイ。只茲ニハ我 今後ノ對外經濟ノ展ノ大勢ヲ述ヘテ速カニ經濟同盟ニ入ノ手續ヲ

採ルコトノ必要ナル所以ヲ論シ、又巴里會議ノ決議ニ付キ注意ス(キ二三ノ點ニ對シテ意見ヲ述ヘントスルノテアル。

我經濟ノ今後ノ發展ハ多々益外國貿易ノ増進ニ依賴セザハナラス。從來外國貿易ノ増進ト云ヘハ世人ハ直チニ輸出額ノ増加ヲ意味スルモノノ如ク考ヘタガ、本來我國ハ石炭生糸銅ノ外ニ重要ノ原料カ缺乏シテ居ル故、我經濟ノ工商業化の進歩ニ伴フテ原料ノ輸入カ益重要トナリ、從ツテ之カ輸入ヲ低廉且ツ安全ナラシムルノ方法ヲ講スルコトガ貿易政策上甚タ重要トナツタ。中立國就中支那ハ我國ニ對シ原料供給國トシテ重要ノモノテハアルガ、我國ノ基本的工業ト稱セラルル綿業ハ、今日マテハ勿論、今後モ主トシテ印度ノ綿花ニ依賴スルコトヲ必要トシ、又近來大ニ發達シツツアル毛織業ハ主トシテ濠洲ノ羊毛ニ依賴セザハナラス。支那ト同シク東洋南洋ニ於ケル聯合諸國ノ屬領、就中英佛領印度、濠洲及露領亞細亞ハ多大ノ天然資源ヲ包藏シテ居ルガ、其經濟ノ尙ホ幼稚ナルカ爲メニ、我國ヨリ工業品ヲ需用スルト同時ニ、其原料ヲ我國ニ供給スルノ地位ニ立ツテ居ル。今後我國カ此等ノ東洋南洋ノ諸地方ヨリ低廉ナル原料ヲ安全ニ獲得シ得ルヤ否ヤハ、直チニ我工業ノ盛衰ニ係ハル大問題ナルガ、戰後ニ我國カ聯合諸國ト經濟上ニ相提携セサルトキハ、原料獲得ヲ安固ニスルヲ得ナイ。現ニ巴里會議ノ決議ニモ

聯合諸國ノ天然資源ノ利用ニ付キ敵國及中立國ヨリモ聯合諸國ニ優先權ヲ有セシムヘシ

ト云フ意味ノ一個條ヲ設ケテアル

## 世人或ハ

戰後ノ聯合諸國ハ一日モ早ク財力ヲ恢復スルヲ要シ、其一方トシテ領土内ノ富源ヲ開發シ原料品ヲ輸出スルコトヲモ必要トスル。故ニ我國ヲ經濟學同盟ニ加入ヲ拒ムモ、之カ爲メ敢テ原料獲得上不安ヲ感スルヲ要シナイ。巴里決議ノ如キハ願ルニ足ラナイ

ト論スル者モアル。併シ乍ラ我基本的工業タル綿業ニ付テ云フモ、我國ニ倍スル錘數ヲ有シテ悲況ニ陷レル印度ノ紡績學者ハ兼テヨリ我國ノ競争ヲ抑ユルカ爲メ其綿花ニ輸出税ヲ課スヘシト主張シ、現ニ最近ニモ戰後ノ經濟策トシテ原料輸出税ノ設定ヲ主張シテ居ル。我國ノ紡績業ハ低廉ナル印度綿ヲ基本トシ、之ニ少量ノ高價ナル米國綿ト下等ノ支那綿トヲ混和シ、價格ノ割合ニハ優良ナル特有ノ綿糸ヲ生産スルコトニ由リ、能ク購買力ノ小ナル東洋南洋ノ諸國ニ販路ヲ擴張シ來ツタノテアツテ、彼ノ購買力ノ大ナル國民ヲ相手トスル歐米ノ紡績業ノ如ク高價ノ米國綿ヲ基本原料トスルヲ得ナイノテアル。故ニ此際印度カ其綿花ニ相當ノ輸出税ヲ課シテモ、我國ハ已ムヲ得ス之ヲ購買使用セザハナラス。即チ其輸出税ハ別段ニ輸出高ノ減少ヲ來タサスシテ、印度政府ニ對シ好個ノ財源ヲ供スルト同時ニ、我國ノ競争ニ苦シミツツアル印度紡績業ニ對シ有力ノ保護ヲ與ヘルコトトナル。印度ノ當業者ハ這般ノ事情ヲ知レルカ故切リニ綿花輸出税ヲ主張スルノテアル。更ニ我毛織業ニ對シテ濠洲ノ羊毛モ略ホ同様ノ關係ヲ有スル。即チ濠洲カ其羊毛ニ相當ノ輸出税ヲ課スルモ、我國ハ直チニ南米其他ノ羊毛ヲ以テ之ニ代ヘルコトハ出來ナイノテアル。由

來濠洲ハ非常ニ國產獎勵ヲ行フ國ニアツテ、其羊毛ヲモ成ルヘク之ヲとつブシテ輸出セントシ、其とつブノ輸出先ハ從來主ニ我國ニアツタガ、今回 戦争ヲ機會トシテ我國ニモとつブノ生産事業ハ次第ニ發達セトシ、濠洲ノ當ヘ者ハ大ニ之ヲ憂慮シツツアル。併シ毛織物ハ重要ナル軍需品ニアツテ其國內生産ノ發達ヲ必要トスルノミトラス、一方ニハとつブ生産事業モ平素リ國內ニ發達シテ居テ、戰時ニ際シ何レノ地ヨリ羊毛ヲ得ルモ直チニ之ヲとつブトシテ各種ノ毛織物ヲ生産シ得ルカ如キ狀態 在ルコトヲ要スル 從ツテ濠洲ノ其羊毛 輸出稅ヲ課スルコトモ我國ニ取ツテハ大ナル打撃ナル。印度濠洲等ノ植民地ハ多大ノ戰爭ヲ分擔スルカ爲メニ國庫收入ヲ増加スルノ必要 迫ラレテ居ルガ、綿花及羊毛ニ相當ノ輸出稅ヲ課シ、特ニ母國以外ヘノ輸出ニ對シテ之ヲ課スルコトハ、其收入増加ノ一方法トナルノデアル。故ニ我國カ天然資源ノ共同利用ノ定ムル所ノ經濟同盟ニ加入スルコトヲ拒ムトキハ、我工業ニ取ツテ最重要ノ原料タル綿花羊毛ハ勿論、海峽植民地ノ錫ハ護謨、濠洲ノ亞鉛鐵等ノ原料ヲ得ルニ付テモ危險ヲ踏マネハナラヌ 固ヨリ朝鮮及支那ニ於ケル綿花ヤ蒙古ニ於ケル羊毛 改良ノ增收トヲ圖ツテ之ヲ利用シ、又國內ニ化學工業ヲ發達セシメテ種々ノ代用ノ原料ヲ生産スルコトモ必要アハアルガ、此等ノ事業ハ決シテ一朝夕ニ目的ヲ達シ得ヘキモノテナイ。故ニ我工業ニ對シテ重要ノ原料 供給スル所ノ聯合諸國ト政治的經濟的ニ親密ノ關係ヲ維持スルコトヲ必要トスル。露領亞細亞及佛領印度支那ハ我輸

出品ノ販路トシテ何程ノ意義ヲ有スヘキヤハ疑問テアルトシテモ、我工業ニ對スル原料供給地トシテ今後次第ニ重要トナルコトハ疑ヲ容レナイ

## 二

次ニ我國ノ輸出ニ付テ見ルニ、今後ハ東洋及南洋ニ於ケル聯合諸國ノ兩領ニ對シテ新ナル發展ヲ爲スノ見込カ最も多ク、從ツテ彼我ノ經濟的接近ヲ圖ル所ノ經濟同盟ニ加入シテ、此等ノ市場ヲ我輸出ニ對シ開放セシメ、特ニ其母國ノ工業品ヲシテ此等ノ市場ヲ獨占セシムルカ如キ帝國主義的政策ヲ我國ニ對シテ行ハシメサルコトヲ必要トスル。元來我國ノ輸出ハ從來米國ト支那トノ兩國ニ偏傾シテ居タ。固ヨリ此兩中立國ハ今後モ我輸出ニ取ツテ益重要トナルコトハ爭ハレナイガ、併シ我國ノ輸出カ米支ト云フカ如キ少數ノ國ニ偏傾シテ居ルコトハ甚タ危險ナル。何トナレハ米支ノ何レカニ對スル輸出カ何等カノ原因ノ爲メ不振ニ陷レハ、我經濟全體カ忽チニ大打撃ヲ蒙ムラネハナラヌ。特ニ我國ハ今後此兩國トノ間ニ最も多ク外交上ノ難問題ヲ生シ、延ヒテ之ニ對スル貿易ヲ不安ナラシムルノ虞カアルトスレハ、今日ノ如ク我輸出ノ重要部分ヲ此兩國ニ集中スルコトハ甚タ不利テアル。米國カ次第ニ帝國主義的色彩ヲ濃クシ、特ニ我國ヲ假想敵ノ一トシテ驚クヘキ海軍大擴張ヲ實行スルコトガ、今後彼我ノ外交關係ヲ屢不安ニ陷ラシムルニ至ルヘキハ多言ヲ要シナイ。更ニ支那カ共和制ヲ布テ國民的自覺ヲ有セル新智識ニ由テ支配セララルニ至

レハ、我國カ滿蒙ヲ抛ツカ如キ對支政策ノ根本的變更ヲ爲ササル以上ハ、彼我ノ外交關係ノ常ニ圓滿ナルコトヲ期待シ難イ。兵力ヲ有セサル支那カ外國ト戰フノ方法ハ外國品非買運動ヲ爲スコトデアツテ、過去ニ於ケル如ク將來ニ於テモ我國ハ支那ニ日貨排斥運動ノ行ハルルコトヲ覺悟スルノ必要アルハ曾テ之ヲ本誌ニ於テ論シタ(大禮紀念號)又辛ニシテ今後支那ト外交上平穩ノ關係ヲ保チ得ルトシテモ、銀相場ノ變動ハ依然トシテ彼我ノ貿易ヲ甚タ危險ノモノタラシメル。加フルニ支那ノ共和制カ確立シテ能ク國內ノ秩序ヲ保持シ得ルヤモ大ナル疑問テアリ、又今後ハ戰前ノ如ク盛シニ外資ヲ輸入スルコトニ由テ我貨物ニ對スル購買力ヲ増加シ得ルヤモ疑問テアル。予輩ハ決シテ支那市場カ我貿易ニ對シ益重要トナルノ運命ヲ有スルコトヲ拒マントスルノテハナイガ、我國ノ輸出ヲ一二ノ國ニ集中スルノ危險ナルコトヲ明カニシ、今後ハ汎ク他方面ニモ貿易ノ相手ヲ求メテ危險ノ分散ヲ行ヒ、以テ我經濟ノ基礎ヲ安固ニスルノ必要ヲ説カントスルノテアル。然ラハ今後何レノ方面ニ我輸出ヲ發展セシメ得ルヤト云フニ、其ノ最モ有望ナルハ三億ノ人ヲ有シテ歐米ノ高價品ヨリモ低廉ナル我工業品ヲ購買スルニ適スル所ノ印度ナアリ、之ニ亞テハ濠洲其他ノ南洋地方テアルコトハ何人モ一致スル所テアル

更ニ諸外國ニ對スル輸出ノ意義ヲ考ヘルニ方ツテハ、單ニ其金額ノ多少ノミナラス、輸出品ノ性質ニ付テモ注意セネハナラス。從來我輸出品ノ市場トシテ金額上最モ重要視セラレタ米國ノ需用ヲ



見ルニ、其七八割ハ原料品ト云フヘキ生糸ヲアツテ、之ニ亞ク所ノ製茶花蒔ノ如キモ原始生産ニ近イモノテアル。然ルニ人口ノ稠密ナルカ爲メニ一體ノ農產物カ騰貴スルノ傾向ヲ有シ、特ニ蠶製糸ノ如ク勞働ヲ多大ニ要スル所ノ生産ハ勞銀ノ騰貴ニ伴フテ次第ニ不利トナラサルヲ得ナイ。固ヨリ我國ノ蠶業ハ近キ將來ニ於テ直チニ悲境ニ陥ルトハ考ヘラレナイ。寧ロ尙ホ増進スルノ傾向アリト云フヲ正當トスルテアラウガ、併シ佛伊ノ蠶業カ經濟ノ進歩スルニ從フテ次第ニ衰退シツツアルコトハ、我國ノ蠶業ノ前途ヲ考フルニ付テモ度外視スルヲ得サル事實テアル。將來我經濟ノ主ナル發展ハ科學ト資本トニ多ク依頼スル所ノ新式ノ工業ニ存スルコトハ疑ヲ容レサル所テアリ、從ツテ此種ノ工業品ニ對シテ輸出市場ヲ確保スルコトハ、我經濟ノ發展ヲ圖ルニ付キ最重要ノ事柄テアル。支那カ米國ニ比シテ我輸出ニ對シ一層重要ノ意義ヲ有スルハ實ニ之カ爲メテアルガ、更ニ印度ヲ初メトシテ東洋南洋ニ於ケル聯合諸國ノ屬領モ、亦支那ト同シク此點ヨリシテ我輸出ニ對シ重要ノ意義ヲ有スル。工業ノ進歩セル歐米諸國ニ於テハ優良ノ高價品ヲ生産スルコトヲ利益トシ、我國ノ如ク下等品ヲ生産スルコトヲ不利トスルノテアルガ、東洋南洋ノ諸民族ハ購買力ノ小ナルカ爲メニ、其工業品ノ需用ノ大ナル部分ハ我國ニ向フノテアル。是レ過去ニ於テ我國カ歐米ト競争シテ大ニ支那市場ニ工業品輸出ヲ増進セシメタ所以テアルガ、印度其他ノ聯合諸國ノ屬領ニ於テモ亦我工業品ノ輸出ハ今後大ニ發展スルノ望カアル。只タ聯合諸國カ今後政治

上ノ力ヲ利用シテ其屬領内ノ市場ニ優先權ヲ握リ、特ニ特惠税ノ制度ヲ立テテ之ヲ獨占セントスルトキハ、我輸出ノ此等市場ニ對スル自然的發展ハ甚タ困難トナラサルヲ得ナイ。故ニ少クトモ相互ノ間ニハ在來ノ通商關係ヲ保ツコトヲ原則トスル所ノ經濟同盟ヲ組織シ、以テ母國ヲシテ其屬領内ノ市場ヲ獨占セシメサルコトヲ必要トスル。經濟同盟ノ成立ノ我國ニ取ツテ必要ナルハ單ニ東洋南洋ノ市場ヨリ獨逸品ヲ排斥スルカ爲メテナク、寧ロ此等ノ土地ヲ領有スル所ノ聯合諸國ヲシテ之ヲ獨占セシメス、我輸出ニ對シテ成ルヘク之ヲ開放セシムルカ爲メニ必要ナノテアル。

### 巴里決議ニハ

戰後獨逸品ヲ排斥スルト同シク、聯合國内ノ港灣ヨリ獨逸船ヲモ排斥シ、又其領内ニ於ケル獨逸人ノ企業ヲモ阻止スルコト

ヲ規定シテ居ル。東洋南洋ヨリ歐洲ニ至ル間ノ重要ノ港灣ハ凡テ英佛ヲ初メ聯合諸國ノ領地ニ屬スル故、之ニ獨逸船ノ寄航ヲ禁止又ハ制限スルコトハ、歐亞ノ通商ニ付テ獨逸ノ勢力ヲ奪フニ最も有力ナ方法テアル。特ニ此方法ヲ行ント同時ニ聯合國ノ船舶カ獨逸品ノ積載ヲ排斥スルニ於テハ、東洋方面ニ於テハ中立ノ支那及蘭領印度ニ對スル獨逸ノ貿易マテモ殆ント全滅スルテアラウ。此場合ニハ我國ノ航海業カ大ニ發達スルノ望アルコトハ多言ヲ要シナイ。併シ乍ラ我國ハ經濟同盟加入ニ由テ此ノ如キ積極的利益ヲ得ントスル前ニ、須ラク我國カ本來海運國トシテ有スル自然地位ヲハ此同盟ニ由テ確保スルコトノ必要ナルヲ知ラネハナラス。今回ノ戰爭ニ由テ我國

ノ輸入防遏事業及輸出事業モ相當ニ進歩シタガ、更ニ進歩ノ著シキハ航海及造船事業アル。世界ノ大海運國タル英國ノ營業者ハ東洋南洋ニ於ケル我海運業ノ今回ノ大發展ニ對シテ頗フル憂慮シツツアツテ、現ニ印度商業會議所ノ經濟同盟ニ關スル決議ノ中、大英帝國ノ利益ヲ中心トシテ立案シタモノノ中ニハ

同盟加入國ノ船舶ト雖モ相互主義ニ由ルニアラサレハ大英帝國内ノ沿岸貿易ヲ許スヘカラス

トノ個條ヲ含ンテ居ル。故ニ若シ聯合國間ニ經濟同盟カ成立セスシテ、戰後ニハ各國カ獨立シテ其對外經濟策ヲ定メルコトナレハ、保護貿易的帝國主義論ノ強烈トナレル英國就中其諸植民地ニ於テ、外國船ニ對スル沿岸貿易ヲ禁制スルノ制度カ成立スルノ危險ナシト云フヲ得ナイ。然ルニ歐亞間及南洋ノ重要港灣ハ殆ント全部英領ニ屬スル故、若シ英國カ汎ク沿岸貿易ヲ禁止シタナラハ、我國ノ海運國トシテノ發達ハ絶望トナリ、延ヒテ我海軍ノ勢力モ衰退セサルヲ得ナイ。故ニ我國ハ此際經濟同盟ニ成立セシメテ此ノ如キ危險ヲ防止スヘク努力セネハナラス地位ニ立ツテ居ル。巴里決議ニハ明白ニ相互沿岸貿易ヲ許ルスヘシト規定シテハナイガ、其戰後ニ於ケル共助協力ノ永久策ト稱スルモノノ中ニハ

聯合國間ニ其產物ヲ流移セシムル爲メ直通迅速且廉價ナル海陸運輸方法ノ設置ヤ通信方法ノ改良ヲ行フヘキコト

ヲ規定シテ居ル。汎ク地球ノ各方面ニ散布セル大植民地ヲ有スル所ノ英國カ我船舶ニ對シテ沿岸

貿易ヲ禁制スルカ如キハ、此ノ決議ノ旨意ニ反スルコトカ明カラアル故、我國ハ此經濟同盟ニ加入シテ海運國タル自然ノ地位ヲ確保シ、延ヒテ我海軍ノ勢力ヲ維持スルニ努メネハナラヌ

### 三

巴里會議ニハ敵國ニ對シテ通商上最惠國待遇ヲ拒ミ、其貨物船舶ヲ排斥シ、又聯合國内ニ於ケル敵國人ノ企業ヲ阻止スルノ規定ヲ設ケテアルガ、聯合國相互ノ間ノ通商ニ付テ定ムル所ハ、戰後ノ應急策トシテ天然資源ヲ共同ニ利用スルコト、及經濟同盟ヲ組織シタ爲メ、或聯合國ノ商品カ敵國市場ヨリ排斥セラレタ場合ニハ、他ノ聯合國力之ニ代償の捌口ヲ與フヘキコトヲ定メ、又戰後ノ永久協力策トシテハ前述ノ運輸通信ノ改善ヲ圖ルコトヲ定メテ居ルガ、相互ノ間ノ關稅ヲ如何ニスヘキヤナ定ナメテ居ナイ。

永久ニ經濟上ノ共助協力ヲ標榜スル所ノ聯合國間ニ從來ノ無條件最惠國待遇ノ繼續セラルヘキハ當然ナルガ、關稅政策ニ至ツテハ各國ノ間ニ現存スル通商條約ノ範圍内ニ於テ各自任意ニ之ヲ定メ得ルコトヲ認メタモノト解スヘキテアル。同決議ノ永久策ト稱スルモノノ中ニ

聯合各國カ敵國ニ對シテ經濟上ノ獨立ヲ圖ルカ爲メニハ其固有ノ經濟政策ノ主義ニ從フテ關稅ノ賦課輸出入禁止等ノ種々ノ方法ヲ採用シ得ヘキコト

ヲ定メテ居ルノヲ見テモ、各國ガ關稅設定ニ付テ有スル國權ノ當然ノ作用ハ經濟同盟ニ由テ束縛セラレナイモノト解スルヲ正當トスル。只タ聯合諸國ハ其結束ヲ堅フスルカ爲メニハ關稅ニ付キ相互ノ間ニハ他國ニ對スルヨリモ寛大ノ待遇ヲ爲スコトヲ必要トスル。即チ關稅ニ付テハ同盟國中立國及敵國ニ對スル差別稅率ヲ必要トシ、又敵國品ヲ排斥スルト同時ニ無條件最惠國條款ノ適

用ヲ同盟加入國ニ限ルコトトスレハ、自然ニ上述ノ如キ三種ノ差別稅率ヲ發生スルニ至ルコトハ  
晉テ論シタ如クテアルガ、巴里決議ノ中特ニ此義ノ點ニ付テ明言セサルハ、此際成ルヘク中立國  
ト紛議ヲ生スルコトヲ避ケントシタ爲メテアルト信スル

從來ノ關稅同盟ハ同盟國相互ノ間ノ經濟的接近ヲ第一ノ目的トスルカ爲メ、其間ノ貿易ヲ無稅ト  
スルカ又ハ大ニ減稅スルト同時ニ、諸外國ニ對シテハ全然同一ノ關稅制度ヲ行フモノテアル。然ル  
ニ今回聯合諸國ノ計畫セル經濟同盟ハ特定ノ敵國ト經濟上ニ戰フコトヲ主タル目的トシ、之カ爲  
メニハ關稅以外ニモ種々ノ手段ヲ採ラントシツツアルガ、其關稅制度ニ付テ見ルニ敵國品ニ對シ  
テハ各加入國カ同一ノ步調ヲ取ルコトハ必シモ困難テナク、又恐ク之ヲ實行スルコトナルノテ  
アラウガ、中立國ニ對スル關稅ニ付テハ單ニ一定ノ主義ヲ定ムルニ止マリ、例ヘハ聯合國品ニ對ス  
ル稅率ニ一定ノ步合ヲ加重シタモノヲ之ニ課スルト云フカ如キ規定ヲ爲スニ止マリ、更ニ之カ基  
本トナル所ノ聯合國間ノ關稅ハ各國ノ自主權ニ由ル決定ト各國相互ノ區々ナル協定トニ一任シ、  
只タ無條件最惠國條款ノ適用ニ由テ一般聯合國カ且ニ之ニ均霑スルコトヲ以テ満足スルノ外ナ  
ク、同盟條約ニ由テ各國ヲ一樣ニ束縛スルコトハ困難テアル。是レ各國ニ於テ戰後ノ財政ヲ維持  
スルカ爲メ關稅收入ニ依賴スル必要多ク、從ツテ關稅ニ關スル自主權ヲ留保スルノ必要アルノミ  
ナラス、此戰爭ニ由テ一般產業就中國防ニ關係アル產業ヲ保護自立セシメントスルノ思想カ強マ

リ、又現ニ戰爭ノ爲メ事實上輸入ノ杜絶シタ上一輸入禁止制度ヲ汎ク實行シタ爲メ各國ニ於テ種種ノ新事業カ勃興シタガ、此等ノ事業ハ戰後ニ處スルノ策トシテ盛ンニ保護稅ヲ要求シツツアルカラテアル。聯合國ノ中露佛伊ハ從來強度ノ保護主義ヲ採リツツアツテ、今回ノ戰爭ハ益其保護熱ヲ増長セシメタノミナラス、露佛兩國ハ其主要工業地方ヲ敵軍ノ爲メニ蹂躪セラレ、戰後ニ之ヲ恢復スルニハ總テノ手段ヲ講スルノ必要カアルガ、其手段ノ一トシテ相當ニ高度ノ保護稅ヲ設クルコトヲ必要ト認メ、從ツテ此等ノ國ハ同盟條約ニ由テ其關稅自主權ノ束縛ヲ受クルコトヲ欲シナイ。加之從來自由貿易ヲ固執セシ英國ノ輿論、就中其實業界ノ輿論ハ今日殆ント全ク保護主義ニ一致スルノ形勢ヲ呈シ、勞働黨ノ間ニハ今尙ホ自由貿易論ノ方カ優勢テアルトシテモ、自由黨系ノ政治家ノ口ニスル自由貿易論ニ至テハ保護主義ヲ認容シタ折衷的ノモノカ多ク、大勢ヨリ見テ英國モ亦保護主義ニ傾イテ來タト云ヘル有様テアル。然ルニ英國ハ從來自由貿易策ヲ採リシ爲メニ日英條約ノ如キ特別ノ場合ヲ除キ一般ニハ輸入稅ニ付テ他國ニ對シ何等ノ協定ヲ行ハナカッタ故、今後ハ自主的ニ之ヲ決定シ得ルノ地位ニ立ツテ居ル。此自主的地位ハ保護主義ニ傾ケル今後ノ英國ニ取ツテハ非常ニ貴重ナモノテアツテ、同盟條約ニ由リ之ヲ制限スルコトヲ欲シナイ。併シ英國就中其植民地カ關稅ニ付テ自主權ヲ有スルコトハ、他ノ聯合國特ニ我國ニ取ツテハ最モ危險ナ事柄テアルコトハ前ニ說明セシ如クテアル

此ノ如ク聯合國相互ノ間ノ關稅ハ到底同盟條約ニ由テ之ヲ一定スルヲ得ナイ。只タ他國ニ對シテ差別的ニ稅率ヲ重クスルコトト、聯合國間ニ無條件最惠國待遇ヲ行フコトトニ由テ自然ニ其間ノ關稅カ一定シ、之ニ由テ相互ノ經濟的接近ヲ圖ルノ外ハナイノテアル。只タ巴里決議ノ中ニ

聯合國カ經濟同盟ヲ組織シタ爲メ敵國市場ヨリ輸出品ノ排斥ヲ蒙ルカ如キ損失ヲ生シタ場合ニハ、他ノ聯合國カ之ニ代償的捌口ヲ與フヘキコトヲ相互ニ保證スル

ト云フ條項カアツテ、一見スレハ聯合國相互ノ間ニハ互ニ關稅ヲ低減スルコトヲ暗示スルヤウテアル。併シ乍ラ此條項ハ單ニ敵國市場ヨリ排斥セラレテ他ニ販路ヲ得ルニ苦シムカ如キ特別ノ場合ニ關スルモノテアツテ、一般商品ニ付キ相互ニ市場ヲ開放シテ販路ノ保證ヲ爲スノテナク、又代償的捌口ヲ與フルカ爲メニハ必シモ關稅ノ低減ヲ要スルノテナク、寧ロ聯合國以外ヨリ入り來ル有力ノ競爭品ニ對シテ關稅ヲ新設増加シ、以テ聯合國ノ貨物ヲ競爭上有利ナラシムル消極的手段カ實際ニ行ハレ易イノテアル。經濟同盟ニ加入スルコトニ由テ自國輸出品ノ敵國市場ニ於ケル販路ヲ失フノ最大ナルモノハ露國ノ輸出スル農產物ヲアルガ、他ノ聯合諸國就中外國農產物ヲ多量ニ需用スル所ノ英國カ之ニ對シテ代償的捌口ヲ與フルノ方法ハ、植民地及聯合國以外ヨリ來ル農產物ニ對シ輸入稅ヲ新設スルコトヲアル。聯合國カ經濟上獨逸ヲ充分ニ壓迫スルカ爲メニハ、其工業品ノ販路トシテ甚タ重要ナル露國ヲ經濟同盟ニ加入セシメ、露國ヨリ獨逸品ヲ排斥

セシムルコトカ必要テアルガ、露國ヲ同盟ニ加入セシムルニハ其農產物ニ對シテ他ノ聯合國カ有利ナル代價的捌口ヲ與ヘネハナラス。一面ニ佛英ハ露國ニ對シテ多額ノ資本ヲ貸付ケテ居ルガ、其債權ヲ安固ナラシムルカ爲メニモ露國ノ農產物ヲ自國ニ受入レルコトヲ有利トスル。併シ乍ラ英佛ノ市場カ獨逸市場ヨリモ一層有利ノ條件ヲ以テ露國農產物ヲ受入ルコトハ頗フル困難テアル。露國ノ經濟同盟ニ對スル態度ノ比較的ニ冷淡ナリト稱セラルルモ一ハ之カ爲メテアル。只タ獨逸ニシテ中歐關稅同盟ヲ組織スルトキハ露國農產物カ漸々獨逸市場ヨリ驅逐セラルルコトトナル故、露國ハ此場合ニハ經濟同盟ニ加入シテ英佛市場ニ代價的捌口ヲ求ムルノ外ハナイノテアル我國ハ英佛トノ通商條約ニ於テ關稅ニ付キ多大ノ讓歩ヲ爲シテ居ル故、經濟同盟ヲ組織シタ爲メ英佛ノ工業品ニシテ獨逸市場ヨリ排斥セラレタモノニ對シ、我國カ之ニ代價的捌口ヲ與ヘル爲メニ現行條約ノ協定以上ニ關稅ヲ輕減スルヲ得ナイ。此等ノ通商條約締結以後特ニ開戰以後我國ニモ種々ノ事業カ勃興シ、其中ニハ我經濟進步ノ基礎トナルモノヤ國防上必要ナモノモアツテ、戰後ニハ相當ノ關稅保護ヲ必要トスル。最モ此戰爭ニ由テ獨逸トノ條約カ消滅シタ爲メ、此兩國ニ對シテ讓歩シタ所ノ稅率輕減モ廢止ニ歸シ、更ニ重率ノ國定稅カ之ニ代ハルコトトナル故、之ニ由テ新興事業ハ相當ノ保護ヲ受ケルコトトナルガ、此外尙ホ現行ノ國定稅率ヲ加重シテ保護スルコトヲ要スル場合モアルテアラウ。故ニ我國カ經濟同盟ニ加入スルトシテモ、自カラ進ンテ關稅上ノ



自主權ヲ妄リニ制限スルヲ得ナイ。英佛就中前者トノ條約ハ實際上我國ニ取ツテ頗フル片務的ノモノテアル故、經濟同盟ノ組織ヲ機會トシテ更ニ之ヲ公平ナル双務的ノモノタラシムルカ如ク英國ノ讓歩ヲ求ムルノ必要カアル。今日英國カ數多ノ輸入税ヲ設ケタノハ單ニ一時的ノ非常税タルニ止マリ、戰後ニハ當然廢止セラルヘシト見ルコトハ出來ナイ。戰後ニハ更ニ増税セラルルコトナルカモ知レヌ故、此際英國ヲシテ公平ナル讓歩ヲ爲サシムルコトハ特ニ必要テアル。此外露國トハ新タニ税率協定ヲ行ヒ、又聯合國就中英國ノ諸植民地トノ通商關係ニ付テモ成ルヘク條約ニ由テ協定ヲ行ヒ、以テ此等諸國カ今後妄リニ保護税ヲ設ケテ我輸出ノ發展ヲ妨ケルコトヲ防止セテバナラス。此ノ如キ新ナル協定ヲ行フカ爲メニハ固ヨリ我國モ之ニ對シテ公平ナル讓歩ヲ爲シ、即チ現行關稅ヲ減廢スルコトヲ必要トスル場合モ生スルノテアルガ、我輸出ヲ此等ノ有望ナル市場ニ發展セシムルカ爲メニハ此ノ如キ讓歩ヲ厭フヘキテナイ。諸外國ト同シク我國ニ於テモ近時產業保護ノ思想カ往々ニシテ極端ニ奔リツツアル。予輩モ亦今後種々ノ產業ノ國內ニ自立發達スルコトヲ必要ト認メルガ、併シ本來國內市場ノ狹隘ナル我國カ大ニ經濟ヲ發達セシムルカ爲メニハ成ルヘク輸出ノ増進ヲ圖ラネバナラス。從ツテ徒ラニ輸入防遏國產獎勵ノ偏狹ナル思想ニ捉ハレテバナラス。又國產獎勵ヲ必要トスル場合ニ於テモ其獎勵ノ手段ハ成ルヘク關稅以外ノ健全ナル方法、就中科學ノ研究應用、技師職工ノ養成、工業資金ノ融通、外國市場ニ關スル

智識ノ普及ト内外市場連絡ノ改善、不正競争ノ制裁ニ由ル發明誠實勤勉ノ獎勵等ノ手段ヲ講セテハナラヌ。特ニ注意スヘキハ從來我國ニ金屬工業ト化學工業トノ幼稚ナリシコトハ我工業界ノ重大ノ缺陷トセラレテ居タガ、此等ノ事業ハ今回ノ戰爭ヲ機會トシテ國內ニ勃興シツツアツテ、戰後ニハ之カ維持發達ニ付テ獎勵助長ヲ必要トスル。然ルニ此等事業ノ生産物ハ主ニ機械器具ヤ工業用材料テアル。故ニ保護稅ヲ設ケテ之ヲ助長セントスルトキハ、一般産業ノ生産費ヲ増加セシメテ其發達ヲ害シ、延ヒテ輸出ノ増進ヲモ困難ナラシムルヲ免レナイ。是レ予輩カ國產獎勵ノ必要ヲ認ムルニ係ハラス、關稅ニ付テ我國ハ大體現狀ヲ維持スルト同時ニ、成ルヘク諸外國ヲシテ我輸出ニ對シ關稅ヲ輕減セシメ、少クトモ今後各國カ妄リニ關稅ヲ増加スルコトヲ防止スルニ力ヲ注クヘシト主張スル所以テアル

戰後聯合國諸國及其植民地カ財政上及産業保護上關稅ヲ増加スルコトハ避ケ難キ大勢テアルガ、聯合國ニ比シテ我國ハ割合ニ低廉ノ工業品ヲ多ク輸出スル。然ルニ輸入稅ノ増加ニ由テ最モ強ク打撃ヲ蒙ムルハ廉價品テアル。特ニ通例各國ニ行ハル所ノ從量稅ノ方法ニ由ル增稅ハ廉價品ニ對シテ不公平ニ打撃ヲ加ヘル。故ニ我國ハ成ルヘク聯合國就中其ノ東洋南洋ノ屬領ニ於ケル輸入稅ノ増加ヲ寬和セシメネハナラヌ。今回ノ戰爭ハ聯合國ニ於テ母國ト植民地トノ政治的經濟的結束ヲ固カラシメ、特ニ植民地ノ母國ニ對スル勢力ヲ大ニ増加セシムルノ勢ヲ呈シツツアルガ、

元來此等植民地ハ一般ニ財政上及產業保護上輸入税ノ増加ヲ希望スルコト強キ故、我國カ其輸入税増加ノ勢ヲ寬和スルカ爲メニハ相當ノ犠牲ヲ拂フノ覺悟ヲ必要トスル。又既ニ述ヘシ如ク此等植民地ト母國トノ結束ヲ固クスル爲メ大ニ特惠税制度ヲ行フヘシトノ論カ有力トナリツツアルガ、我國ハ假令ヘ自治植民地ニ於ケル現行ノ特惠税ヲ廢止セシムルヲ得ナイトシテモ、更ニ之ヲ増加シ又ハ新設スルコトニハ極力反對セテハナラヌ。特ニ印度カ母國ニ對シテ特惠税ヲ新設スルトキハ我國ノ南洋發展ノ希望ハ大部分水泡ニ歸セサルヲ得ナイ故、此特惠税新設ハ如何ニシテモ防止セネハナラヌ。然ルニ今日我國カ經濟同盟ニ反對シテ之ニ加入ヲ拒ムモ、之ニ由テ聯合諸國就中其植民地ノ輸入税増加ヤ特惠税ノ設定ヲ防止スルノ效力ハナイ。假リニ我國ノ加入拒絶カ一原因トナツテ經濟同盟カ不成立トナツタトシテモ、其場合ニハ聯合諸國ハ各自獨立シテ保護貿易の帝國主義ヲ行ノコトナリ、我經濟ノ發展ヲ妨クルコトハ同一ナルアラウ。故ニ此際我國ハ進ンテ經濟同盟ノ成立ヲ助ケテ共同ノ敵ヲ倒スコトニ協力シ、其代リ同盟加入國相互ノ間ノ通商關係ニ付テハ少クトモ現在以上ニ關稅増加ヲ行ハサルコトヲ大體ノ原則トセシメ、又聯合諸國就中其植民地ヲシテ輸入税ニ付キ讓歩ヲ爲サシムルカ爲メニハ我國モ之ニ對シテ公平ノ讓歩ヲ爲スコトヲ要スル。近來英國ニ於テ外國船ニ沿岸貿易ヲ制限スヘシトノ論カ起ツテ居ルカ、若シ今後英國カ此制限ヲ實行セントスルナラハ、我國ハ宜シク自カラ從來ノ沿岸貿易制限ヲ解イテ、之ト

交換的ニ英領内ノ沿岸貿易權ヲ獲得スヘキテアル。今日我國カ外國船ニ沿岸貿易ヲ許ルスモ之カ爲メ我海運業ハ殆ント何等ノ打撃ヲ蒙ムラサルコトハ當業者ノ一致スル所テアルニ反シ、英國カ其領内ニ於ケル沿岸貿易ヲ禁止シタナラハ、我國ノ海運業ハ衰退スルノ外ハナイノテアル。聯合諸國及其植民地ノ實業界ニ於テ問題トナツタノハ主ニ戰後ニ於ケル經濟戰的同盟計畫テアルガ、現ニ戰爭ニ從事シツツアル聯合國政府ハ第一ニ戰爭中敵ニ對シテ物資供給ノ途ヲ絶テ、又敵國人ノ經濟的活動ヲ阻止シテ戰後ノ經濟界ニ於ケル捲土重來ヲ防クノ急ヲ感セサルヲ得ナイ、是レ巴里決議ニ於テハ

戰時ニ採ルヘキ措置トシテ對敵人通商禁止、敵人ノ財産事業ノ差押及對敵國軍需品輸出禁止ニ付キ聯合國ノ步調ヲ一ニシテ之カ取締ヲ履行スヘキコト

ヲ規定シタ所以テアル。目下歐洲交戰國ニ於テハ敵味方トモ其敵國及敵國人ニ對シテ行ヘル取締ハ甚タ嚴重ナモノテアツテ、我國カ過去ノ戰爭ニ於テ敵國ニ對シテ行フタ措置トハ頗フル趣ヲ異ニスルモノカアル。是レ一ハ敵人待遇ニ關シテ國際法上ノ主義ヲ異ニスル爲メテモアラウ。又今次ノ戰爭ハ未曾有ノ大規模ナモノテ、各國ハ其國民ノ生命ト財産トノ殆ント全部ヲ直接間接ニ動員シテ戰爭ヲ行ヒツツアルカ爲メテモアラウガ、一ハ又此等ノ諸國ハ互ニ敵國ト隣接シ又其領内ニ多數ノ敵國人民及其事業カ存在シ、相互ノ間ノ平時ノ交通生活カ以前ニハ想像シ得ナカツタ程

密切トナツテ發達シテ居タ爲メ、有效ノ對敵取締ヲ行フテ戰爭ノ目的ヲ達セントスレハ頗フル嚴酷ノ規定ヲ必要トスルカ爲メテアル。極東ノ我國ト敵國トノ交通關係ハ之ト全ク趣ヲ異ニスル故、歐洲聯合國ト全然同一ノ對敵取締ヲ行フコトハ戰爭遂行上必要トハ云ハレナイ。併シ我國モ共同ノ敵ヲ倒スカ爲メニハ成ルヘク聯合國ト步調ヲ一ニセネハナラス。特ニ聯合諸國ハ戰爭中凡テノ手段ヲ盡シテ敵國人ノ外國ニ於ケル經濟的勢力ヲ根本ヨリ顛ヘシ、以テ其ノ戰後ノ捲土重來ヲ防止スルノ方針ヲ以テ進ミツツアルニ反シ。獨リ共同交戰國タル我國カ敵人及其事業ヲ寬大ニ待遇シテ、其戰後ニ於ケル勢力恢復ノ根據ヲ擁護スルカ如キ態度ヲ採ルコトハ、實ニ聯合諸國ヲシテ我國ノ眞意ノ何レニ在ルヤヲ懸念セシムル大原因トナツテ居ルヤウテアル。戰爭中我國カ敵人ニ對シテ此ノ如キ態度ヲ採リ乍ラ、一面ニハ聯合國ニ對シテ戰後ニ經濟上ノ接近ヲ爲シ、特ニ其市場ト港灣トヲ我商品ト船舶トニ向ツテ開放シ、又其天然資源ヲ自由ニ我工業ノ用ニ供スルコトヲ要求スルノミナラス、目下鑛材其他ノ物資缺乏シ、同時ニ輸入超過ニ由テ正貨流出ニ苦シメル聯合諸國ニ向ツテ輸出入禁止ノ適用ヲ特ニ我國ニ對シテ寬大ニスルコトヲ要求スルカ如キハ、到底公平ノ態度ト稱スルヲ得ナイ。世上傳フルカ如ク現ニ我國自身モ獨逸ヨリ奪ヒ取ツタ膠洲灣ヤ南洋諸島ニ於テハ、必要ト認ムル場合ニハ聯合諸國ノ實行セル所ニ類スル對敵取締方法ヲ行ヒツツアリトスレハ、我國ハ主義トシテ一概ニ巴里決議ノ對敵取締ニ同意ヲ拒ムヲ得ナイテアラウ。又

經濟上ノ見地ヨリスレハ、今日我領内ニ於ケル獨逸人ノ事業ハ極度ニ收縮シ、又獨逸品ノ輸入モ殆ンド杜絶シテ居ル故、巴里決議ノ對敵取締ヲ實行スルモ眼前殆ント何等ノ不利ヲ招カサルノミナラス、今後我國民ハ少クトモ東洋南洋方面ニ於テハ獨逸商人ニ取ツテ代ルヘキ地位ニ立ツテ居ル故、今日巴里決議ヲ實行スルコトハ戰後ノ發展ニ利益テアル。一般ニ東洋南洋ノ方面ニ於ケル英國商人ハ其ノ多年ノ歴史的地位ト豊富ナル資本トニ由テ活動セルニ反シ、新進ノ獨逸商人ハ寧ロ其技能ト勤勉トヲ以テ遺利ヲ拾フノ傾ヲ有シテ居タ。故ニ資本ニ乏シキ新進ノ我國民ハ多少目前ノ不利カアツテモ尙ホ東洋南洋ヨリ獨逸人ヲ驅逐シテ其地位ヲ填充スルヲ得策トスル

## 四

巴里決議ニハ戰爭カ如何ナル結果ニ終ツタ場合ニ經濟戰ヲ行フヘキヲ規定シテ居ナイ。併シ經濟戰ノ目的ハ獨逸カ其經濟力ノ發達ヲ利用シテ兵力の侵略ヲ行フノ危險ヲ除クコトヲ主トスル。故ニ戰爭ノ結果獨逸カ再ヒ起ツ能ハサルカ如キ大敗ニ歸ジ、特ニ舊東西ノ勢力ヲ挫テ獨逸聯邦ノ結束ヲ緩メ、其軍備ニ對シ確實ニ制限ヲ加フルノ途カ立ツナラハ、其上更ニ經濟戰ヲ行フテ之ヲ壓迫スルノ必要ハナクナル。故ニ若シ戰爭カ此ノ如キ敵ノ大敗ニ終ツタナラハ、同盟條約中ニ別段ノ規定カナクトモ經濟戰ハ行ハレナイテアラザガ、併シ今日マテノ成行ヲ見レハ戰爭ハ此ノ如キ決定の結果ニ達スルコトハ甚タ豫期シ難イ。經濟戰ノ實行ニ對スル障礙ハ寧ロ聯合諸國ノ利害ノ調和シ難キコトト中立國ノ反抗トニ存スル。英國政府ハ巴里決議ニ賛成シタト傳ヘラレルガ、果シテ無條件ニ賛成セシヤ否ヤハ不明テアル。戰後經濟上ノ孤立ヲ恐ルル佛伊カ經濟同盟ヲ希望スルノ情強キハ疑ナキ所テアルガ、經濟上獨逸ト積極的及消極的ニ關係ノ密切ナリシ露國之ヲ加入セシムルコトハ容易テアルマイ。併シ露國力之ニ加入セサルトキハ經濟同盟ハ成立シナイト即斷スルヲ得ナイ。更ニ中立國ノ反對ニ付アハ米國ノ態度カ最モ多ク問題トナルノテアルガ、

聯合諸國ニシテ確固タル決意ヲ有スルナラハ米國力之ニ有效ノ反對ヲ爲スコトハ困難デアラウ。只此同盟ヲ成立セシムルニ付テ中立國トノ關係ヲ決定スルカ爲メニハ、聯合諸國カ現ニ中立諸國ト締結セル無條件最惠國主義ノ條約ナ一先ン消滅セシメ、同時ニ聯合國間ノ現行條約ヲモ改メテ其間ニ寛大ノ差別稅率ヲ適用シ、又無條件最惠國待遇ヲ與フルコトハ、同盟ニ加入スルコトヲ條件トシテ認メルコトトスルヲ要スルデアラウ。

經濟同盟ニ對スル我國ノ贊否ハ直チニ其運命ヲ決スルノ力アリト斷定スルヲ得ナイガ、併シ此同盟ニ對スル我國ノ決意ハ結局日英同盟日露協商ノ運命ニモ關係ヲ及ホスコトナル故、聯合諸國ハ決シテ我國ノ意思ヲ輕視スルヲ得ナイ。是レ予輩カ經濟同盟ニ加入スルニ付テハ我國ノ正當ノ利益ヲ保護スルニ足ル條件ヲ提出シ、之ヲ認容セシムルノ望カアルト云フ所以テアル。特ニ此條件タルヤ決シテ巴里決議ノ旨意ニ反スルモノテナク、寧ロ聯合國間ノ共助協力ニ有利ノモノテアル故、我國ノ要求ヲ容レシムルコトハ決シテ不能事テハナイ。戰後ニ獨逸側ト聯合國側トカ關稅團體ヲ組織シテ經濟戰ヲ行フ場合ニ我國カ中立ヲ守レハ、舊テ論シタ如ク我國ハ一方原料ノ取得ニ付テ不安ヲ生スルト同時ニ、双方ノ團體ヨリだんびんぐヲ蒙ツテ國內市場ヲ蹂躪セラルルノ危險ヲ生シ、他方ニハ我國ノ輸出就中今後新ナル大發展ヲ爲シ得ヘキ南洋方面ニ對スル輸出力不振トナルコトヲ覺悟セネハナラス。故ニ經濟戰ノ行ハルル場合ニハ、我國ハ聯合國側ニ加入スルノ外ハナイノテアルガ、若シ何等カノ事情ノ爲メ聯合國側ノ經濟同盟カ不成立トナツタ場合ニ我國ノ地位ハ如何ト云フニ、決シテ安全トハ云ハレナイ。我工業ニ對シテ原料ヲ供給スル主要地モ、又我

工業品輸出ノ新ニ發展シ得ヘキ主要地モ聯合國就中英國ノ領地テアルガ、戰爭開始以來英本國及其植民地ニ於ケル保護貿易の帝國主義ノ思想ハ非常ニ有力トナツテ居ル故、若シ經濟同盟カ成立シナカツタナラハ、英國ハ其世界の大植民地ヲ提テ獨立ニ保護貿易ヲ行フニ至ルコトヲ覺悟セネハナラス。之カ爲メニ甚シク打撃ヲ蒙ルモノハ獨逸ヨリモ寧ロ我國テアル。世人カ今尙ホ經濟同盟問題ニ付テ甚タ冷淡デアツテ多數者ハ寧ロ其成立ニ反對スルノ勢ヲ呈スル所以ハ、恐ラク經濟同盟カ不成立トナリサヘスレハ世界ノ通商關係ハ戰前ノ狀態ヲ恢復シ、特ニ世界ノ通商上最重要ノ地位ヲ占ムルト同時ニ我國トノ關係モ深キ英國カ依然トシテ自由貿易ヲ行ヒ、其本國及植民地市場ヲ以前ノ如ク我國ニ向ツテ開放シテ呉レルテアラウト信スルカ爲メテアルト考ヘラレルガ、予輩ノ見ル所ニ由レハ這ハ甚タ危險ナル樂觀テアル。經濟同盟カ成立シナケレハ英國ハ獨立シテ其大植民地ト共ニ保護主義ヲ採ルニ至ルノ危險カ甚タ大テアル。特ニ此戰爭ニ由リ英國植民地ノ母國ニ對スル政治的勢力ハ著シク増加シタガ、此等植民地ハ兼テヨリ過度ノ保護主義ニ傾イテ居ルト同時ニ、特惠稅ノ増加新設ニ由リ母國ト結束ヲ固クシテ其國際政治上ノ地位ヲ安固ナラシメントシツツアル。故ニ戰後經濟同盟カ成立シナイトシテモ我國ノ經濟的地位ハ矢張り孤立シテ不安ニ陥ラサルヲ得ナイ。併シ乍ラ聯合國ノ中テ戰後英國カ此ノ如キ保護主義ヲ行フコトニ由リ不安ノ地位ニ陥ルモノハ獨リ我國ノミテナク、佛國ノ如キモ大ナル不利ヲ蒙ムラネハナラス。



是レ佛國ニ於テモ識者ハ英國ヲ牽制シテ相互ノ間ニ成ルヘク自由貿易ヲ行ハシムル爲メ之ト經濟同盟ヲ結フノ必要ヲ感シツツアル所以テアル。故ニ我國ノ目下ノ急務ハ聯合諸國ト相互ノ通商關係ニ付キ成ルヘク戰前ノ狀態ヲ維持スルコトヲ原則トスル所ノ同盟ヲ結フコトテアツテ、此目的ヲ達スルカ爲メニハ佛伊ト提携シテ努力スルコトカ得策テアル。此同盟ノ組織ニ付キ我國ニ有利ノ條件ヲ認メシメントスレハ、我國ハ速カニ此同盟ニ贊成ノ意ヲ表セネハナラス。各國カ之ニ同意シテ略ホ同盟ノ内容カ決定シタ後ニ至リ我國カ初メテ條件付キノ同意ヲ申込シテモ、其條件ヲ貫徹スルノ望ハ甚タ少ナイ、特ニ注意スヘキハ最近戰爭ノ形勢カ次第ニ聯合國側ニ有利ニ轉シツツアルガ、此形勢カ更ニ進ンテ聯合國側ニ勝利ノ確信カ生シタ後ニ我國カ初メテ加入ノ意思ヲ發表スルモ、相手方ハ之ヲ德トセスシテ寧ロ我態度ノ陋劣ヲ惡ムテアラウ。東洋南洋ニ於ケル聯合國植民地ハ我經濟ニ取ツテ原料供給上及工業品輸出上重大ノ關係ヲ有スル。然ルニ此等植民地モ今後其國內ニ先ツ低級ノ工業ヲ起サントシツツアルガ、之ニ對シテ最モ激烈ナ壓迫ヲ加ヘルモノハ、同シク低級工業ニ付テ一日ノ長タル我國テアル。故ニ我國ハ移民問題以外ニ於テモ今後此等植民地トノ經濟的衝突カ漸次増加スルノ勢カアル。故ニ我國カ同盟條約ニ由テ此等植民地トノ通商關係ヲ確保シ置クコトハ今日ノ急務テアル。